

基督教学研究

第 25 号

水垣涉
名誉教授古稀記念号

水垣 涉 名誉教授古稀記念号 目次

論 文

アウグスティヌスの「知ある無知 <i>docta ignorantia</i> 」	片柳 榮 一 …… 1
ホワイトヘッドの形而上学とプロセス神学	芦 名 定 道 …… 21
旧約聖書での啓示体験（序論） —— 日本的性情との関わり ——	名 木 田 薫 …… 43
パツチュの聖餐研究における類比の問題 —— ヘレニズム起源の類比について ——	田 辺 明 子 …… 63
オリゲネスにおける戦争倫理学 —— 古代キリスト教における宗教的生の一断面 ——	久 山 道 彦 …… 83
ニシビスのエフライムにおける神学的アプローチ —— シリア・キリスト教の意味するもの ——	竹 田 文 彦 …… 113

クリュストモスのエウドキア（神の喜び）理解
——影響作用史的聖書解釈の試み——……………武藤 慎一 ……129

詩篇解釈をめぐるルターとカルヴァン……………竹原 創一 ……153

キェルケゴールの「自由の可能性」
——「永遠的なもの」を旨指して——……………山本 忠義 ……171

トレルチと「キリスト教学」の理念……………安 酸 敏 眞 ……191

罪の自覚
——その人間学的構造 (三) ………………内 村 公 義 ……213

ありてある哲学者の神
——マリオンとリクールの思索を手がかりに——……………佐 藤 啓 介 ……235

特別寄稿

聖書の伝統とその周辺における《わたし》と《自己》の問題……………水 垣 涉 ……259

彙報

A. 二〇〇五年度基督教学専修講義題目

片柳榮一 教授

講義 「キリスト教学概論」

特殊講義 「自由論の宗教哲学的課題」

演習 「アウグスティヌス『三一神論』(ラテン語原典演習)」

演習 「新約聖書『ローマ人への手紙』(ギリシャ語原典演習)」

演習 「キルケゴール『あれかーこれか』(デンマーク語原典演習)」

芦名定道 助教授

特殊講義 「キリスト教思想史における自然の諸問題(4)」

演習 「日本・アジアのキリスト教——植村正久『真理一斑』——」

演習 「Alister E. McGrath, *The Foundations of Dialogue in Science & Religion*, Blackwell 1998 (宗教と科学の新たな関係構築に向けて——A・E・マクグラス——(3))」

演習 「キリスト教思想研究の現在」

片柳榮一 教授・芦名定道 助教授

演習 「キリスト教学の諸問題」

森 哲郎 講師

特殊講義 「西田哲学とキリスト教——『場所的論理と宗教的世界観』を読む——」

安酸敏眞 講師

特殊講義 「エルンスト・トレルチの神学的・哲学的思想の再検討」

勝村弘也 講師

語学 「ヘンライ語文法と講読」

佐藤啓介 講師

講読 「Eberhard Jüngel, *Gott als Geheimnis der Welt*」

修士論文

B. 二〇〇四年度論文題目

濱崎雅孝 「W・パネンベルクにおける人間本性の探求」

堀川敏寛 「M・フーバーのヘンライ的人間観——『我と汝』とハシディズム」

卒業論文

小柳敦史 「E・トレルチ『キリスト教の絶対性と宗教史』における主体性と人格性」

三〇三

第一号目次

終末論の二類型

武藤一雄

キリスト論の視点

森田雄三郎

初期アウグスティヌスの人間学

金子晴勇

Lumen Christi

佐藤吉昭

ルターの„Ordnung“に関する一考察

早乙女禮子

ルターにおける信仰と礼典

竹原創一

バルト『ローマ人への手紙』における神認識

村山周治

第二号目次

オリゲネスの「キリスト教理解」

水垣 涉

ゲッセマネ

大島征二

神学における言葉の問題

竹原創一

アウグスティヌスにおける

小池三郎

キリストの人性について

伊藤利行

ギリシャ語旧約聖書における

安酸敏真

„Zusatz“について

Erlebens-・Trennungにおける

„Komponierung“の概念

安酸敏真

シェリングに於ける

「世界経験」について

ルターにおける「外」と

「内」についての一考察

森 哲郎

片柳俊子

第三号目次

キルケゴール研究の方法について

エイレナイオスと聖書

テイリツヒの芸術神学について

絶対の相の下に

ルターの律法理解

聖書ヘブル語統辞論の

テキスト言語学的考察

小川圭治

菊地栄三

田辺明子

片柳榮一

宮庄哲夫

勝村弘也

第四号目次

ルターの解釈学は

「美存論的解釈」といえるか

キプリアヌスの教会理解

ノビリの印度伝道

テンブルックのヴェーバー解釈を

めぐる論争

今井 晋

佐藤吉昭

塩谷 悟

高野晃兆

フィロンとキリスト教

ルターの抵抗権思想における服従の問題

創世記テキストにおける語りの技法

シェリングに於ける神話と世界

ヘクサプラ断片の残存率について

解釈学的教義学の構成について

内村鑑三と「身体の救い」

言語芸術作品としての旧約聖書物語テキスト

エルンスト・トレルチにおける

「歴史の神学」の構想

教義学的思考における解釈学的循環の問題

特別号) 目次

第六号(武藤一雄名誉教授古稀記念

神学的宗教哲学について

特別号) 目次

第六号(武藤一雄名誉教授古稀記念

神学的宗教哲学について

特別号) 目次

第六号(武藤一雄名誉教授古稀記念

神学的宗教哲学について

特別号) 目次

第六号(武藤一雄名誉教授古稀記念

神学的宗教哲学について

特別号) 目次

第六号(武藤一雄名誉教授古稀記念

神学的宗教哲学について

特別号) 目次

第六号(武藤一雄名誉教授古稀記念

アレクサンドリアのフィロンにおける

能動と受動の問題

水垣 渉

奇跡物語へのマージナリア

大島征二

アルバート・シュヴァイツァーの聖餐論へ

の新約聖書学的批判

田辺明子

ヨセフスのモーセ物語について

秦 剛平

エイレナイオスの人間理解

菊地栄三

キプリアヌスの『棄教者論』考察

佐藤吉昭

アウグステイヌスの時間論

片柳榮一

ルターにおける「アフエクトゥス」の問題

今井 晋

ルターとアウグステイヌス

金子晴勇

神学的構造主義の問題

森田雄三郎

M・ヴェーバー「古代ユダヤ教」と

高野晃兆

パリアリア民族の概念

高野晃兆

浄土系仏教とキリスト教の救済論の

原田博充

一異に関する考察

原田博充

日本の伝統的宗教的心情とキリスト教

名木田薫

との関連について

名木田薫

ウィリアム・ケアリの伝道に対する貢献

塩谷 悟

神概念の転換

小川圭治

第七号目次

ルターと神学的決定論

金子晴勇

Inago Dr.としての精神の自覚の

片柳榮一

三一的構造

武藤一雄

脚下照顧

武藤一雄

M・ヴェーバー「古代ユダヤ教」と

高野晃兆

カスパリの批判(一九二二)

高野晃兆

パウル・ティリッヒと象徴の問題

芦名定道

第八号目次

キリスト教概念の成立(その二)

水垣 渉

アルベルト・シュヴァイツァーの

水垣 渉

「イエス神秘主義」

笠井恵二

シェリング『自由論』再考(二)

森 哲郎

ルターにおける職業観の問題

早乙女禮子

第九号目次

西田幾多郎とキリスト教

小川圭治

R・ブルトマンにとつての

小川圭治

イエスの意義に関して

名木田薫

旧約物語テキストにおける

ヒンネー(見よ)の機能

勝村弘也

シェリング『自由論』再考(二)

森 哲郎

P・ティリッヒの時間論

芦名定道

キェルケゴールにおける

山本忠義

「自己の定義」について

山本忠義

第十号目次

ルターにおける「体験」の問題

今井 晋

——一つの覚書——

今井 晋

シュタウピッツとルターの神秘思想

金子晴勇

ルターとカールシュタット(二)

宮庄哲夫

ルターにおける試練について

竹原創一

神学主義と宗教主義

武藤一雄

オリゲネス『原理論』に於ける

久山道彦

悪の問題序論

久山道彦

キェルケゴール「死に至る病」の

信岡茂浩

「キリスト教的理解」

信岡茂浩

第十一号目次

創造と進化——創造における無——

森田雄三郎

ルターとカールシュタット(二)

宮庄哲夫

神言表の可能性とその〈言述的〉

掛川富康

「合理化」の問題

伊藤利行

ヘブライズムとギリシャ語聖書

畑 宏枝

第十二号目次

神探求の場の開示

片柳榮一

二つの歴史的社会的イエス研究について

大島征二

「思い煩う」(ルカ二・二二〜三三)

田辺明子

レッシングの神学思想——序説——

安酸敏眞

自由意志論争におけるエラスムスとルター

畑 宏枝

アントニオスの修道

竹田文彦

第十三号目次

内村鑑三における「内と外」の論理

原島 正

キリスト教倫理の源泉

名木田薫

七十人訳翻訳史序説(二)

伊藤利行

隠喩と神学的実在論

芦名定道

ニュッサのグレゴリオスの

「鏡における神認識」の存否

土井健司

オリゲネスにおける神のエネルギー

松丸 太

第十四号目次

キルケゴールにおける〈論理的問題〉

林 忠良

罪の自覚——その人間学的考察(二)

内村公義

モルトマンの歴史理解——希望の神学と

笠井恵二

探求する聖霊——初期オリゲネスにおける

久山道彦

解釈的原理

ニュッサのグレゴリオスにおける「鏡」

の概念について 土井健司

クリュソストモスの解釈学——神理解の

可能性と不可能性の問題を巡って

武藤慎一

伊藤邦幸氏の逝去を悼む

高野晃兆

第十五号目次

罪をおかすことによつて罪から救贖できる？

——ユダヤ教神秘主義の失敗からの

警告—— 森田雄三郎

ブルトマンと聖書

笠井恵二

アウグスティヌスの恩寵論

伊藤邦幸

ニシビスのエフライムの解釈学

武藤慎一

P・ティリッヒにおける「カイロス」と

認識の形而上学——歴史的相対主義

今井尚生

「コヘレトの言葉」の構造と思想

——一人称表現の用法をめぐって——

金井由嗣

第十六号(故武藤一雄名誉教授追悼号)

目次

- 神・愛・場所——ブーバーから武藤への
接近の一つの試み—— 水垣 渉
- アルバート・シュヴァイツァーの聖餐論に
おける問題設定 田辺明子
- 殉教者カルタゴ司教キプリアヌスの
古代殉教観の軌跡 佐藤吉昭
- 古代教会におけるキリスト教経済思想の形成
——トレルチ「社会学說」研究ノート—— 高野晃兆
- 二つの恩恵——アウグスティヌス「誼實と
恩恵」——第二章 金子晴勇
- ルターのキリスト神秘主義 片柳榮一
- 言葉と経験——ルターとディオニシウスの
かかわり—— 竹原創一
- 若きレッシングの宗教思想 安酸敏眞
- キリスト教の自然理解について——序章—— 今井 晋
- 神の愚かさと人間の賢さ 森田雄三郎
- キリスト教の終末論における将来的な
ものと現在のなもの 原田博充

「キリスト教と仏教」に関する若干の考察

名木田蕪

モルトマンの聖書理解

笠井恵二

M・ブーバーとハンハイム 早乙女禮子

Wie wird man seiner Hingeburt gewiß?

——Eine Untersuchung zum Reinen
Land Buddhismus der Heian und
Kamakura Zeit——

メルティン・レンツ

第十七号目次

ルターの神観における神秘的なるもの

金子晴勇

ルターの詩篇解釈における語り手の問題

竹原創一

エラスムスにおける『反野蛮人論』と
ヒューマニズム 畑 宏枝

『ペルシヤの賢者』アフラハトの解釈学

武藤慎一

テイリッヒ『教義学』における歴史の問題

今井尚生

第十八号(水垣渉名誉教授退官記念号)

目次

- 聖書における沈黙について 伊藤利行
- 生成の論理と存在の論理
- 古代キリスト教思想の解釈への
一試論—— 土井健司
- クリュソストモスにおける神の下降と
人間の上昇——解釈学的観点から—— 武藤慎一
- この世界への、この世界からの脱出
——ハンナ・アーレントのアウグス
ティヌス解釈 片柳榮一
- エラスムス『現世の経蔑』に関する一考察
——その執筆動機と思想—— 畑 宏枝
- ルターの詩篇解釈における悔い改めと沈黙
——第四編五節の「悔い改めなき」
(Ps)と「沈黙しなき」(PsH)の
解釈をめぐる—— 竹原創一
- レッシングにおける真理探求の問題 安酸敏眞

キェルケゴールの「罪」理解——「死に至る病」

を手掛かりに

山本忠義

価値および意味と宗教の問題——トレルチ

およびティリッヒの思想を手掛かりとして——

今井尚生

現代キリスト教思想における

終末論の可能性

芦名定道

明治キリスト教と朝鮮人李樹廷

金 文吉

“Hahthologia” als die wissenschaftliche

Konzeption Teisitaro Arigas - Zunn

Problem der Interpretation von Ex. 3,

14ff. als theologisch-hermeneutischer

Methode für die Theologiegeschichte

掛川富康

オリゲネス『原理論』における本性と被造性

久山道彦

第十九号目次

キリスト教古代の女性殉教者再考(一)

佐藤吉昭

第一次ユダヤ戦争に見るフィロカイサル

秦 剛平

たちとその系譜

アフラハトにおける神の下降と人間の上昇

—— 解釈学的観点から——

武藤眞一

ササン朝ペルシアにおけるキリスト教徒

迫害と『エデッサ殉教者伝集』

竹田文彦

『エレミヤの告白』における

呪いの言葉をめぐって

大石祐一

知恵の人格性と一人称表現——箴言八章

一二節「私は知恵」の理解——

金井由嗣

ヒック宗教的多元論の科学的構造

小倉和一

第二十号目次

トレルチとカルヴァニズムの社会哲学

—— デモクラシーとの関連に
注目して——

高野晃兆

トレルチとセバステイアン・フランク

安酸敏眞

ティリッヒの生の次元論における一問題

—— 統一概念の周辺——

今井尚生

シュライエルマッハーの「信仰論」における

罪理解

帆刈 猛

ひとり立つ人格と真の交わり

—— キェルケゴールの「単独者」の思想を
媒介として——

原田博充

真理の多形性——ドイツ文化プロテスタン

ティズムの今日的意義について——

フリードリヒ・ヴィルヘルム・グラーフ

表現主義とティリッヒの視覚芸術論

川桐信彦

伝記的記述の客観性について

—— E・ブッシュ『K・バルトの生涯』を
めぐって——

小川圭治

森田雄三郎氏の逝去を悼む

高野晃兆

第二十一号目次

「緊張」について

—— キリスト教思想研究の方法に
ついての一つの省察——

水垣 渉

K・バルト「教会教義学」における

「キリスト—信仰」について

—— 実存と救済史との一体性という
観点から——

名木田薫

罪の自覚——その人間学的構造(二)

内村公義
「宗教哲学の新しい可能性」について

——武藤一雄名譽教授の学問的立場を
めぐる断想(その一)—— 今井 晋

同一性から複数性へ——ジョン・ヒックの
キリスト論—— 小倉和一

反省と顕現——リクルールの宗教言語論の
構造について—— 佐藤啓介

懐疑者の義認——前期テイリッヒの
義認理解—— 近藤 剛

偽ディオニュシオス・アレオパギテース
——「神名論」第二章における
神の統一と区分—— 大月栄子

第二十二号目次

人間の内の恒久なるもの

——アウグスティヌスの

「神の似像」理解——

キリスト教における性的問題

内村鑑三における「神・人・自然」

宗教的複数主義とパトナムの

片柳榮一

笠井恵二

原島 正

近藤 剛

大月栄子

佐藤啓介

近藤 剛

大月栄子

佐藤啓介

近藤 剛

大月栄子

佐藤啓介

近藤 剛

大月栄子

佐藤啓介

近藤 剛

大月栄子

佐藤啓介

近藤 剛

大月栄子

佐藤啓介

近藤 剛

大月栄子

佐藤啓介

近藤 剛

大月栄子

プラグマティックな実在論 小倉和一

神名再考——出エジプト記三章一四節の

統語論的考察—— 大石祐一

聖書、解釈、自己、行為——リクルールの

聖書言語論の社会思想的射程—— 佐藤啓介

初期テイリッヒの思惟構造

——二元論—二元論—モデル—— 近藤 剛

テイリッヒにおける宗教社会主義の

神学的意義——テイリッヒ・ヒルシュ

論争をめぐって—— 岩城 聡

マルキオンにおける創造と悪

——テルトゥリアヌス『マルキオン反駁』

をテキストとして—— 津田謙治

キルケゴールにおける「Continuum」の問題

シュヴァイツァーとアイヒホルン

——聖餐をめぐって(一)—— 林 忠良

神学と宗教学——両者が困難を越えて

田辺明子

関係を結ぶための暫定的な覚書——

クリストフ・シュヴェーベル

リクルールの贈与論

——倫理の源泉としての贈与の経緯—— 佐藤啓介

神秘主義と罪意識のアンチノミー

——初期テイリッヒのシェリング解釈—— 近藤 剛

類似しない類似

——神への上昇の偽ディオニュシオスの

方法—— 大月栄子

二つの「義の神」像——ブトレマイオスと

マルキオンにおける解釈をめぐって—— 津田謙治

アレイオス主義における神論と

救済論についての一考察 大橋仁夫

理解のための思考

——ハンナ・アーレントの『精神の生活』

における「思考」の意義—— 今出敏彦

第二十四号目次

キリスト教思想と形而上学の問題 芦名定道

第二十三号目次

キルケゴールにおける「Continuum」の問題

シュヴァイツァーとアイヒホルン

——聖餐をめぐって(一)—— 田辺明子

神学と宗教学——両者が困難を越えて

田辺明子

関係を結ぶための暫定的な覚書——

クリストフ・シュヴェーベル

リクルールの贈与論

——倫理の源泉としての贈与の経緯—— 佐藤啓介

神秘主義と罪意識のアンチノミー

——初期テイリッヒのシェリング解釈—— 近藤 剛

類似しない類似

——神への上昇の偽ディオニュシオスの

方法—— 大月栄子

二つの「義の神」像——ブトレマイオスと

マルキオンにおける解釈をめぐって—— 津田謙治

アレイオス主義における神論と

田村直臣の「児童中心のキリスト教」

帆刈 猛

四世紀イラクにおける地域文化としての

キリスト教——そのマイノリティ

としての自己意識—— 武藤慎一

初期ティリッヒ『組織神学』構想の意義

近藤 剛

神を映し出す鏡——偽ディオニュシオス・

アレオパギテースにおける天上の

存在者の位置づけ—— 大月栄子

テルトゥリアヌスとマルキオン・カノー

ン——『異端者への抗弁』と『マルキオン反駁』

における異なる論点を巡って——

津田謙治

人間の生に仕えるものとしての精神の生

——ハンナ・アレントの

『精神の生』の構想—— 今出敏彦

後期ティリッヒにおける歴史をめぐる問題

——問いの構造について—— 鬼頭葉子

内村鑑三の「近代批判」と再臨運動

——社会から個人へ、

そして再び社会へ—— 岩野祐介

執筆 者

片柳 榮一	京都大学大学院文学研究科教授
芦名 定道	京都大学大学院文学研究科助教
名木田 薫	元倉敷芸術科学大学教授
田辺 明子	プール学院大学名誉教授
久山 道彦	明治学院大学文学部教授
竹田 文彦	英知大学文学部助教
武藤 慎一	大阪府立工業高等専門学校校助教
竹原 創一	立教大学文学部教授
山本 忠義	元大阪府立高等学校教諭
安酸 敏眞	北海学園大学人文学部教授
内村 公義	長崎ウエスレヤン大学教員
佐藤 啓介	京都大学文学部非常勤講師
水垣 涉	京都大学名誉教授

Contents

<i>Augustine's "docta ignorantia"</i>	Eiichi Katayanagi
<i>The Metaphysics of Alfred North Whitehead and Process Theology</i>	Sadamichi Ashina
<i>The Experience of Revelation in the Old Testament (Prolegomena) — The Relation with Japanese Feelings —</i>	Kaoru Nagita
<i>Das Problem der Analogien bei der Abendmahlsforschung von Hermann Patsch — die Frage nach den Analogien der hellenischen Provenienz</i>	Akiko Tanabe
<i>The Ethics of War in Origen</i>	Michihiko Kuyama
<i>Ephrem's Theological Approach to God — What Syriac Christianity meant in the Ancient Mediterranean World</i>	Fumihiko Takeda
<i>'Eudokia' (Good Pleasure) as understood by John Chrysostom: An Effective Historical Approach to Biblical Interpretation</i>	Shinichi Muto
<i>Luther and Calvin, Their interpretation of Psalms</i>	Soichi Takehara
<i>Kierkegaard's Possibility of Freedom</i>	Tadayoshi Yamamoto
<i>Troeltsch and the Idea of "Christian Studies"</i> ..	Toshimasa Yasukata
<i>The Awareness of Sin — Its Anthropological Structure (III)</i>	Kimiyoshi Uchimura
<i>Dieu des philosophes qui est ce qui est: Au travers des pensées de Marion et Ricœur</i>	Keisuke Sato
<i>The Problem of "I" and "Self" in Early Biblical Tradition</i>	Wataru Mizugaki

京都大学基督教学会規約

一、本会は京都大学基督教学会と称し、事務局を京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科キリスト教学研究室に置く。

二、本会は基督教学研究の進展を目的とする。

三、本会は前条の目的を達成するために以下の事業を行う。

(一) 研究発表会、講演会などの開催

(二) 学会誌『基督教学研究』の発行

(三) 内外の研究機関及び研究者との相互交流

(四) その他の必要な事業

四、本会は基督教学の研究に従事する者、もしくは本会の趣旨に賛同する者をもって会員とする。入会は委員会の承認による。

五、本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもつてこれに充てる。

会員は年会費五千元を納めるものとする。会員のうち年額一口五千元を二口以上納めるものを維持会員とする。

六、本会の運営のために次の委員を置く。

(一) 代表者 (一名)

(二) 委員 (若干名)

(三) 監事 (一名)

代表者、委員、監事は会員の間から選出し、任期を二年とし、再選を妨げない。

七、本会は毎年総会を開き、会計及び一般報告を行い、必要事項を協議する。

八、本規約は委員会の発議に基づき、総会において変更することができ、

(本規約は一九九八年二月から施行する。)

代表者…小池三郎

委員…高野晃兆、林 忠良、片柳榮一、宮庄哲夫、

勝村弘也、芦名定道、武藤慎一

監事…水垣 渉

第二十五号編集実務委員会

小池三郎
高野晃兆
林忠良
片柳榮一
宮庄哲夫
勝村弘也
芦名定道
武藤慎一

二〇〇五年十二月二十日印刷
二〇〇五年十二月三十日発行

定価二一〇〇円
(本体二〇〇円)

発行者

京都大学基督教学会
京都市左京区吉田本町
京都大学大学院文学研究科
キリスト教学研究室内

発行人

小池三郎

発売元

(株)一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10

印刷所

(株)アイワード

本誌の御註文は、最寄のキリスト教書店、もしくは、右記、京都大学基督教学会（振替〇一〇三〇一五―七二〇七）へ、送料とも二四一五円（定価二一〇〇円、送料三一五円）を添えてお申込み下さい。

JOURNAL
OF
CHRISTIAN STUDIES
KIRISUTOKYOGAKU KENKYU

Vol.25

December, 2005

STUDIES DEDICATED
TO
PROFESSOR EMERITUS WATARU MIZUGAKI

THE SOCIETY OF CHRISTIAN STUDIES
KYOTO UNIVERSITY

Kyoto Japan